

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2013年1月)

発表日2013年3月8日(金)

～経常収支は原数値で3ヶ月連続の赤字も、季調値では依然黒字～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2011	7月	10,537	7,751	▲ 2,679	▲ 981	▲ 1,699	11,357
	8月	4,363	5,915	▲ 4,627	▲ 2,657	▲ 1,969	11,406
	9月	16,107	10,811	▲ 561	837	▲ 1,398	12,288
	10月	5,339	4,342	▲ 7,474	▲ 5,490	▲ 1,983	12,288
	11月	1,261	4,952	▲ 5,820	▲ 3,968	▲ 1,852	11,953
	12月	2,657	6,882	▲ 4,169	▲ 2,344	▲ 1,826	12,143
2012	1月	▲ 4,556	2,122	▲ 7,829	▲ 6,695	▲ 1,135	11,133
	2月	12,026	8,050	▲ 2,975	▲ 1,113	▲ 1,862	11,582
	3月	13,074	5,938	▲ 4,019	▲ 3,001	▲ 1,019	10,937
	4月	3,735	3,953	▲ 7,499	▲ 4,971	▲ 2,528	12,280
	5月	3,421	4,283	▲ 6,349	▲ 3,941	▲ 2,407	11,883
	6月	4,221	6,787	▲ 4,419	▲ 2,189	▲ 2,230	12,065
	7月	6,625	3,211	▲ 7,930	▲ 5,333	▲ 2,598	12,079
	8月	4,448	5,681	▲ 5,705	▲ 3,219	▲ 2,486	12,291
	9月	5,137	▲ 177	▲ 11,922	▲ 9,023	▲ 2,899	12,549
	10月	3,769	3,179	▲ 8,303	▲ 5,929	▲ 2,374	12,163
	11月	▲ 2,224	2,042	▲ 8,662	▲ 6,152	▲ 2,510	11,672
	12月	▲ 2,641	1,147	▲ 9,531	▲ 6,995	▲ 2,536	11,952
2013	1月	▲ 3,648	3,646	▲ 8,449	▲ 6,571	▲ 1,879	11,932

(出所)財務省「国際収支統計」

○ 経常収支は原数値では異例の3ヶ月連続の赤字も、季節調整値では黒字を維持

1月の経常収支は原数値で▲3,648億円の赤字と、コンセンサス(▲6,260億円、レンジ:▲8,607億円～▲3,139億円)を上回る結果となった。比較可能な1985年以降では初の3ヶ月連続の赤字である。ただし、1月は正月休みの影響で輸出が減少しやすいといった季節性があり、季節調整値では3,646億円の黒字とこれまでの黒字基調を維持する形となった。なお、財務省によると、1月はミャンマー向けの延滞債務解消を受けて経常移転収支に1,585億円の受取を計上する調整が行われている。ただし、この特殊要因を除いて経常収支全体の季節調整値を計算しても2,342億円の黒字となり、低水準ながらも黒字は維持されている。

貿易収支(季節調整値)の内訳を確認すると、輸出入ともに円安等による輸出入価格の上昇を主因に前月比で大きく上昇したが、輸出金額の方が増加幅が大きかったため、貿易赤字は前月から縮小した。価格の影響を除いた実質輸出入(日本銀行)をみると、輸入は1月は前月比で上昇したものの、これまでの増加傾向には一服感がある。一方で、輸出は1月分は中華圏の春節の影響で押し上げられている面もあるが、基調としては海外経済の回復等を背景に持ち直しつつあると言えよう。

○ 貿易外収支の動向：所得収支の黒字は直接投資収益にやや陰りがあるものの底堅く推移

貿易外収支の内訳を季節調整値で確認すると、サービス収支は1,879億円の赤字と前月（▲2,536億円）から赤字幅が縮小した。内訳をみると、旅行収支の赤字額が増加したものの、輸送収支とその他サービス収支の赤字額が減少した。このところサービス収支は、その他サービス収支が赤字傾向にあることなどから赤字幅が拡大してきたが、海外経済の回復等を背景に足元赤字幅の拡大には歯止めがかかりつつある。一方、所得収支をみると、1月は11,932億円の黒字と前月（11,952億円）からほぼ横ばいでの推移であった。基調をみると、これまで拡大基調を保っていた直接投資収益にやや陰りが窺えるものの、ウェイトの大きい証券投資収益が高水準で維持することで全体としては底堅い推移となっている。

○ 経常赤字の定着は避けられる見込み

このように、経常収支は原数値では3ヶ月連続の赤字となったものの、季節調整値では黒字を維持しており、1月の結果をもって経常収支の赤字が定着したとまでは言えない。貿易収支については円安の進展が目先貿易収支の赤字拡大要因となろう。輸入金額が輸出金額を上回っていることに加え、輸入は輸出に比べ外貨建て取引の割合が高いことから、円安は短期的には貿易赤字を拡大させる効果を持つ。ただし、その後は海外経済の回復や円安の数量効果の顕在化に伴い緩やかながらも赤字幅は縮小に向かう見込みだ。

他方、所得収支は、豊富な対外純資産を背景に引き続き高水準の黒字を維持する可能性が高い。円安の進展も所得収支の黒字の押し上げ要因である。足元やや陰りが窺える直接投資収益も海外経済の持ち直しに伴って徐々に拡大基調に戻るだろう。総じてみれば、目先は円安による貿易赤字の拡大によって季節調整値でも赤字になることもあり得るが、基調としては経常収支は黒字を維持し、緩やかに黒字幅が拡大に向かうとみている。

